

銅剤の夏季散布による薬害のかんきつ品種間差の比較

愛媛果試第28号（紅まどonna）や甘平といった優良中晩柑の栽培面積が増加しているが、かいよう病に弱い。夏季に銅剤を散布すると銅の薬害（スターメラノーズ）が発生する危険性が高いが、台風の影響などにより防除が必要となる。そこで、夏季の銅剤散布による薬害の発生に品種間差があるかを比較した。

1 銅の薬害(スターメラノーズ)



写真1 スターメラノーズ(銅剤の夏季散布により発生する角張った黒い斑点)

・2021年8月27日、9月10日の夕方に炭酸カルシウム剤無加用で散布
 ・黒点病と識別できない銅の薬害もあるため黒点病を含めた黒点症状を着色後に調査(甘平は約20果/樹×3樹。その他は約40~50果/樹×3樹)

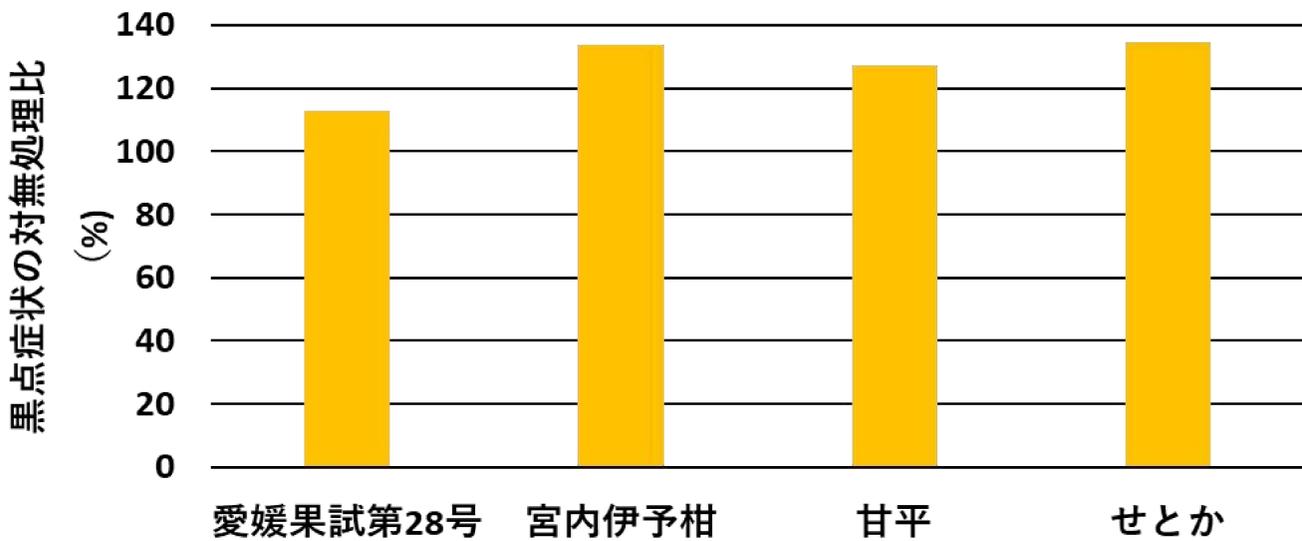


図1 無処理樹を100として比較した銅剤散布樹の黒点症状の発生程度

黒点症状の増加(無処理比)に大きな品種間差はなかった

2 着色異常(果皮の黄化症状)

・2021年8月27日、9月10日の夕方に炭酸カルシウム剤無加用で散布
 ・9月24日調査(約50果/樹×3樹)

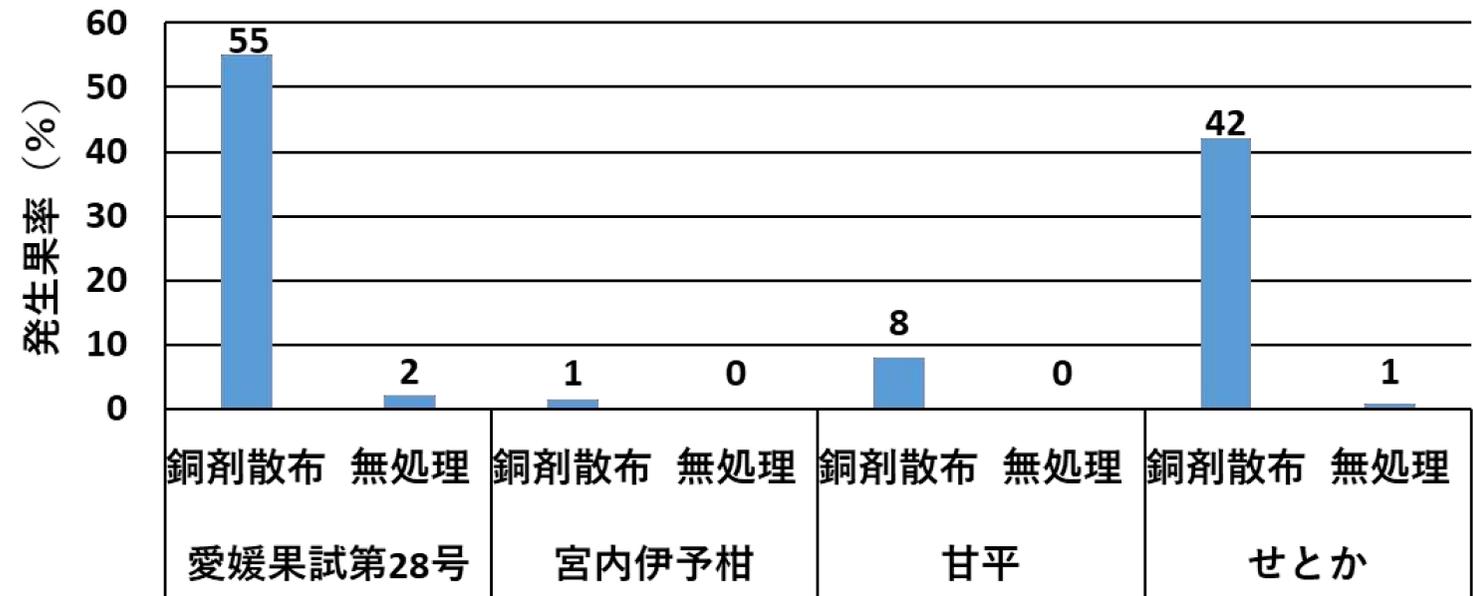


図2 夏季の銅剤散布による黄化症状の発生果率

「愛媛果試第28号」と「せとか」では写真2の黄化症状(着色後にはわからなくなる)が発生→果皮が銅の影響を受けやすい可能性

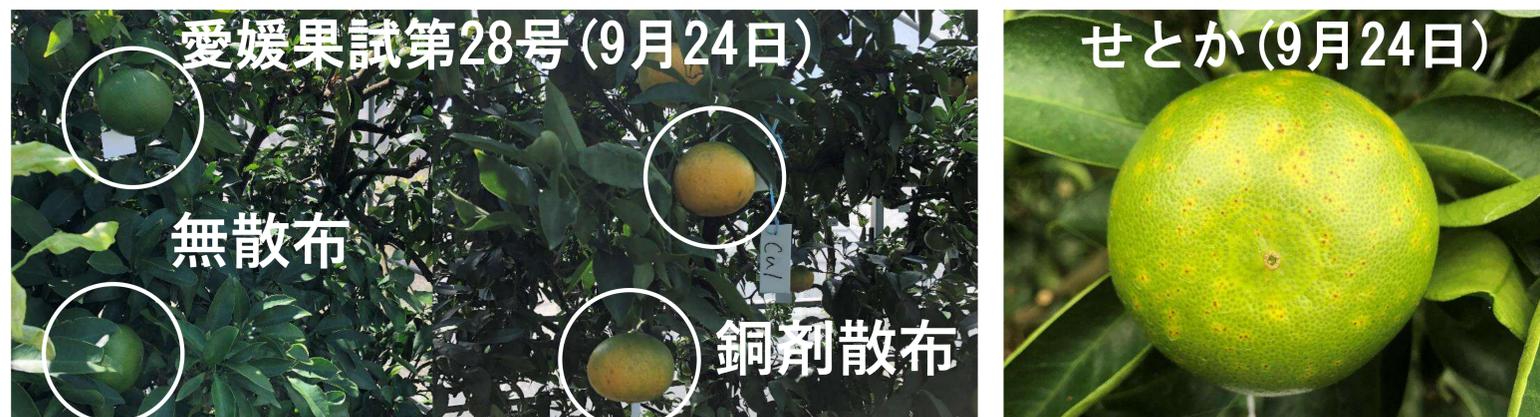


写真2 夏季の銅剤散布による果実の黄化症状

今回、夏季に銅剤(炭酸カルシウム剤を無加用)2回連続散布しても銅の薬害発生に大きな品種間差はなかったが、薬害は気象条件による影響を大きく受けるため、さらに検討を行う必要がある。